1 自己評価及び外部評価結果(1ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89		
自己評価作成日	平成22年1月9日	評価結果市町村受理日	平成22年3月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500389&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性や能力に合わせて、作業療法(ガーデニング、野菜作り、物の制作)や音楽療法、体力作り家事手伝い等に取り組み利用者同士のコミュニケーション作りも活発に行われている。地域ボランティアとの交流もあり、温かい見守りの中、安心して生活を送っている。職員は、常に利用者寄り添い思いを尊重して、明るく笑顔の絶えない雰囲気作りをするよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体である医療機関が隣接しており、随時受診しやすい環境である。「寝たきりにならない」を目標にできることをやっていただき生活リズムを整えて自立につながっていると、拘束はしないケアを全職員で確認しあって介護している。地域においては、毎日の散歩のときのふれあい、美容室の送迎サービス、自宅花壇開放の申し出など、関係が築かれている。また、祭りの行事に参加したり、職員が町内の溝掃除に参加するなど地域の一員としての役割も担っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し近隣との交流深めるを理念とし、それに基づき挨拶や会話などを通じて親近感を持って頂けるよう実践しています。	地域の方々との交流を深めて地域で安心して暮らしていただくことを理念とし、毎朝のミーティングで職員が読み上げて確認し実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、祭りなどの行事に参加している。地域の一員として積極的に溝掃除活動も行っている。婦人会の等のボランティアと交流し利用者の散歩になじみの関係となり地域の見守りが構築されている。	自治会に加入し、地域の行事や、溝掃除に参加している。近隣の美容室の出張サービスや利用者への訪問があり、地域との交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし自治会や民生委員を通じ近隣ケア等の集いがある際認知症への理解を求め支援されている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に一回開催し行事や問題点について話し合いがされている。地域の人々の見守りなど利用者が普通に外出できる環境づくりのきっかけとなるなど会議をサービス向上に活かしている。	会議を通じて、地域行事参加の声かけがある。又会議後、地域の回覧を独自にして下さるようになった。多くの意見を聞くために、利用者も参加する会議を、より多く開催することを心がけている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居依頼の問い合わせや、社会福祉協議会の方たちとの連絡を密にし、色々相談や要望をしたり、指導を受けたりして課題・解決を図っている。	利用者が参加する運営推進会議の持ち方などについて相談したり、ホームの行事に参加し、サービスの取り組みなど意見交換をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が周知徹底を図り取り組んでいる。利用者に危険が伴う場合のみ家族に了承して頂き、やむを得ず短時間のみ行う場合もある。玄関の施錠も利用者の安全を守るため状態によっては施錠をすることもある	以前やむを得ず家族の了承のもと、短時間行ったことがある。今は「しない、したくない」の目標をもち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は昼夜とも施錠していない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待がなされていないか、職員間で報告を密にし見過ごされる事がないよう全職員で防止徹底を図っていく		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ここの必要性に応じて、分らないことは、市関係者に問い合わせたり、していますが今のところは、該当者はいません。入居するときに、すでに権利擁護をお願いしている人はいます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に説明をした上で入居を決めて頂いています。又、改定など生じた場合は、郵送にて、文章等をお送りして、署名印をいただいています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置し気軽に意見や要望を言えるような関係作りに努めています。又、行政機関等を利用して苦情を表せるよう表記してある	職員は、家族の訪問、面会時に何でも話し合えるような雰囲気作りを心がけている。利用者の意見も聞いて運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開き、話し合いの場を設けている。	ホーム内では毎月1回のミーティング、事業所全体では年に数回の会議を開き、意見や提案を聴いている。管理者は顔を会わせない時でも、メモなどを活用して職員の意見を聞き、運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回親睦会を開き情報交換をし、コミュニケーションを図り、職員の考えや思いを把握するよう努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に研修が行われている。外部講習の案内もあり、勤務内で受講の機会があり研修費用の補助や資格取得に向けた支援がある。毎日のミーティングで働きながら学ぶを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホームを訪問するなどの交流はある。職員はサービスの質の向上のためにも同業者との交流に努めているがまだ、一部の職員に限られているので、除除に全般にいきわたるようにしたい、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学機会を設け、情報収集をし、生活の変化によるダメージの軽減に努めて、良い関係が作れるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、見学機会を設け家族の意向や要望を聞き信頼関係を築くよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から情報収集をし、何を必要としているかを見極めて他のサービスが必要な場合は協力支援するよう努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩ととらえ、スキンシップを大切にして、声を掛け合い共に共同生活者として、できることはしてもらい助け合って生活をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や家族の要望に耳を傾け、職員が中立な立場でより良い関係が保てるよう支援し、本人の思いに添えるような関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人自ら手紙を出される場合もあるが、行事等のお知らせを発行したり、散歩やドライブ等で馴染みの場所を訪れたり、馴染みの人が訪問しやすい雰囲気づくりに努めています。	馴染みの場所へ散歩やドライブで行くだけでなく、他への外出時がかつて住んでいた地域を訪れるなど心がけている。馴染みの人が来た時は一緒にお茶を楽しみ、再訪しやすいように心配りしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業療法や、運動療法、レクリエーション等の日々の日課を通し利用者同士が関わり、孤立しない様な雰囲気作りに努めています。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから、連絡することはありませんが、家族や利用者とは、声を掛け双方の近況を話しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の日課(作業等)や食事中の会話から利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。不安心な様子が見られる場合は、声掛けをして寄り添う心掛けをしています。	声かけを多くして、本人の希望や意向の把握に努めている。会話から意向が汲み取りにくい方も、表情や身振りなどから思いを捉えるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接等で、生活歴や家族構成、今までの生活環境を把握するよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の言葉や笑顔、うなずきの表情からその日をどのように暮らしたいのか、希望に沿って支援している。声掛けを見守り、観察、傾聴を通し、症状把握に努めて記録し残している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族の要望を聞きながら全職員が気づいたこと等を意見を出して介護介護計画に反映させている	定期的な見直し時や、その他随時、本人・家族の意見・意向を聞き、職員がケアの中で気づいたことや、ホーム主治医の意見も取り入れて介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に介護記録を記入。状態の変化等に気付いたことを記入し、職員間で話し合い工夫しながら介護計画を見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況により本人家族の要望に応じ、理美容院の利用や近隣ケアの参加や地域のボランティア等の協力を得て支援している。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源、エネルギーの節約、花、野菜を植え収穫等を楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療施設が隣に隣接している為、ちょっとした変化等に気付いた時などは、常に医師と相談しながら安心した生活が出来る。	かかりつけ医受診時は、ホーム主治医の情報を持ち家族が付き添っている。場合によりできないときは職員が対応している。受診結果は介護記録等に記入し、職員が情報を共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の声をよく聞き、適切な看護・又は受診が出来るよう配慮する。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者のいままでの生活状態を詳しく報告し早期退院に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見守りを頻繁に又声掛けをして心穏やかに1日を過ごせるよう細やかな介護に努めている	重度化や終末期は、ホーム主治医・本人・家族・関係者が参加して度々話し合いを持ち、方針を確認して共有し介護している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に職員どうし話し合いをして緊急・応急手当等が出来るようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施や・地域密着会議等に議題として取り扱って、地域の人たちとの連携等を確認している	定期的に避難消防訓練や、消火器の取り扱い訓練をしている。運営推進会議でも災害対策が話し合われているが、地震や夜間を想定した避難訓練はまだ実施されていない。	地域に声かけし、地域住民との協力体制のもと、地震想定、夜間想定での避難訓練をされることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に部屋があり、プライバシーを確保し、名前を呼ぶときは言葉使いに気をつけ、さんと呼ぶようにしている	入室時のノックや、失禁時の声かけに配慮するなど、全職員が実践している。入浴は同姓介助を原則とし、声かけして本人の気持ちを確認し対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとり、なんでも話せる関係を保てるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などは、時間がかかる人は、少し早くから食べて頂き、入浴などは、入って頂く順番を教えゆっくり入浴できるよう教えている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に一回ぐらいのペースで、美容院に歩ける人は、出向いて、歩けない人は、施設に来ていただいたり、一緒に衣装のチェックをしたりして、必要な物があれば買いそろえる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物や食べたい物などを尋ね、できる限りそれに応えられるよう努力している。又、食器の後片付け等を当番制にして一緒にしている。	好きな時間に食事ができるように、時間をずらしたり、部屋食にするなどしている。その人のできる力に合わせて食器の後片付けを一緒にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないよう、一週間のメニューを決め、バランスの取れた食事を心がけている。又、10時と3時には、水分補給の為、ティータイムにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る人は、歯ブラシを使い、できない人は介助しながら、嗽等をしていただいている。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は出来る限り、オムツを外し、トイレ誘導に努め、排泄の訴えあれば、何時でも誘導をしている。	ベッド上の排泄をやめ、ポータブルトイレへの移乗、トイレ誘導などの順を追っての排泄支援により、オムツから布パンツにと自立につながった人が居る。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて、食物繊維の食べ物を多く摂取し、水分補給にもつとめている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助のいない方は、何時でも入浴して頂けるようにし、介助が必要な方は、体調、タイミング、希望を聞き何時でも介助して入浴をしている。	朝9時から夜8時まで入浴可能である。希望があれば、状況に応じてシャワー浴、足浴など個々に沿った支援がなされている。ゆず湯、菖蒲湯など季節の湯も楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房の設備は各部屋にあり、好きな時に起き、天気の良い日は布団を干し、気持ちよく休眠してもらっています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの薬は、用法、用量等は薬袋に書いてある通りに服薬してもらい、どうしてもわからないときは、看護師等に聞くよう努めている、服薬して30分ぐらい体調に変化がないか様子を見る		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵・折り紙・編み物・カレンダー作り等、季節に合わせて、お花見や、紅葉を見に出かけ、気分転換をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は、近くの公園に出かけたり、地域のお祭り、催しなどに参加し、地域のコミュニケーションをとっている。	公園や地域の催し物、ホームや近隣の花壇などに出かけている。閉じこもりがちな利用者には無理強いしないで、まず部屋から居間へ、居間から屋外へと段階を経て誘い外気に触れるよう支援している。	

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる人は、自分で管理し、できない人は、事務所で預かったり、権利擁護等で管理し、欲しいものがあるときは、希望を聞き、買い物支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置し、何時でも使えるようにしてある。手紙も希望があれば代筆をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、四季折々の生け花をしたり、(ホームの花壇で花をつくり、それを生けたりしている)トイレ等の共用の空間は利用者が不快な思いをしない様整理整頓に心がけている。	玄関には花壇で育てた花、居間には共同制作の貼り絵や色紙など飾り、季節感が感じられる工夫をしている。調理の音・香りも生活感がある。又、室内犬「タロー」が自由に遊び、仕種を眺めたり触れ合うことができ、利用者に癒しをもたらしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームにはテレビ等設置してあり、一人でお風呂に入れる人は、のんびりと入っていただき、あわてさせたりしない。入居者同士、ホームで話が弾んでいるときは、話の中に入っていくようきをつけている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた物を持ってきてもらい、使い慣れたものを使い、すこしでも自宅との距離感がないよう生活に工夫をしている。	居室には使い慣れた家具が置かれ、好きな絵や自作の押し花の色紙・写真などが飾られ、安心してその人らしく過ごせる部屋になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の掃除、食事の手伝い、洗濯、花壇の手入れ等や趣味で自分で出来ることは自分でしていただいている。		

1 自己評価及び外部評価結果(2ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89		
自己評価作成日	平成22年1月9日	評価結果市町村受理日	平成22年3月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し近隣との交流深めるを理念とし、それに基づき挨拶や会話などを通じて親近感を持って頂けるよう実践しています。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、祭りなどの行事に参加している。地域の一員として積極的に溝掃除活動も行っている。婦人会の等のボランティアと交流し利用者の散歩になじみの関係となり地域の見守りが構築されている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし自治会や民生委員を通じ近隣ケア等の集いがある際認知症への理解を求め支援されている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に一回開催し行事や問題点について話し合いがされている。地域の人々の見守りなど利用者が普通に外出できる環境づくりのきっかけとなるなど会議をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居依頼の問い合わせや、社会福祉協議会の方たちとの連絡を密にし、色々相談や要望をしたり、指導を受けたりして課題・解決を図っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が周知徹底を図り取り組んでいる。利用者に危険が伴う場合のみ家族に了承して頂き、やむを得ず短時間のみ行う場合もある。玄関の施錠も利用者の安全を守るため状態によっては施錠をすることもある		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待がなされていないか、職員間で報告を密にし見過ごされる事がないよう全職員で防止徹底を図っていく		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ここの必要性に応じて、分らないことは、市関係者に問い合わせたり、していますが今のところは、該当者はいません。入居するときに、すでに権利擁護をお願いしている人はいます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に説明をした上で入居を決めて頂いています。又、改定など生じた場合は、郵送にて、文章等をお送りして、署名印をいただいています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置し気軽に意見や要望を言えるような関係作りに努めています。又、行政機関等を利用して苦情を表せるよう表記してある		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開き、話し合いの場を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回親睦会を開き情報交換をし、コミュニケーションを図り、職員の考えや思いを把握するよう努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に研修が行われている。外部講習の案内もあり、勤務内で受講の機会があり研修費用の補助や資格取得に向けた支援がある。毎日のミーティングで働きながら学ぶを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホームを訪問するなどの交流はある。職員はサービスの質の向上のためにも同業者との交流に努めているがまだ、一部の職員に限られているので、除除に全般にいきわたるようにしたい、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に見学機会を設け、情報収集をし、生活の変化によるダメージの軽減に努めて、良い関係が作れるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人と同様、見学機会を設け家族の意向や要望を聞き信頼関係を築くよう努めています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族から情報収集をし、何を必要としているかを見極めて他のサービスが必要な場合は協力支援するよう努めています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩ととらえ、スキンシップを大切にして、声を掛け合い共に共同生活者として、できることはしてもらい助け合って生活をしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の意向や家族の要望に耳を傾け、職員が中立な立場でより良い関係が保てるよう支援し、本人の思いに添えるような関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人自ら手紙を出される場合もあるが、行事等のお知らせを発行したり、散歩やドライブ等で馴染みの場所を訪れたり、馴染みの人が訪問しやすい雰囲気づくりに努めています。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>作業療法や、運動療法、レクリエーション等の日々の日課を通し利用者同士が関わり、孤立しない様な雰囲気作りに努めています。</p>		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから、連絡することはありませんが、家族や利用者とは会えば、声を掛け双方の近況を話しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の日課(作業等)や食事中の会話から利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。不安げな様子が見られる場合は、声掛けをして寄り添う心掛けをしています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接等で、生活歴や家族構成、今までの生活環境を把握するよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の言葉や笑顔、うなずきの表情からその日をどのように暮らしたいのか、希望に沿って支援している。声掛けを見守り、観察、傾聴を通し、症状把握に努めて記録し残している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族の要望を聞きながら全職員が気づいたこと等を意見を出して介護介護計画に反映させている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に介護記録を記入。状態の変化等に気付いたことを記入し、職員間で話し合い工夫しながら介護計画を見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況により本人家族の要望に応じ、理美容院の利用や近隣ケアの参加や地域のボランティア等の協力を得て支援している。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源、エネルギーの節約、花、野菜を植え収穫等を楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療施設が隣に隣接している為、ちょっとした変化等に気付いた時などは、常に医師と相談しながら安心した生活が出来る。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の声をよく聞き、適切な看護・又は受診が出来るよう配慮する。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者のいままでの生活状態を詳しく報告し早期退院に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見守りを頻繁に又声掛けをして心穏やかに1日を過ごせるよう細やかな介護に努めている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に職員どうし話し合いをして緊急・応急手当等が出来るようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施や・地域密着会議等に議題として取り扱って、地域の人たちとの連携等を確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に部屋があり、プライバシーを確保し、名前を呼ぶときは言葉使いに気をつけ、さんと呼ぶようにしている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとり、なんでも話せる関係を保てるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などは、時間がかかる人は、少し早くから食べて頂き、入浴などは、入って頂く順番を教えゆっくり入浴できるよう教えている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に一回ぐらいのペースで、美容院に歩ける人は、出向いて、歩けない人は、施設に来ていただいたり、一緒に衣装のチェックをしたりして、必要な物があれば買いそろえる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物や食べたい物などを尋ね、できる限りそれに応えられるよう努力している。又、食器の後片付け等を当番制にして一緒にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないよう、一週間のメニューを決め、バランスの取れた食事を心がけている。又、10時と3時には、水分補給の為、ティータイムにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る人は、歯ブラシを使い、できない人は介助しながら、嗽等をしていただいている。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は出来る限り、オムツを外し、トイレ誘導に努め、排泄の訴えあれば、何時でも誘導をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて、食物繊維の食べ物を多く摂取し、水分補給にもつとめている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助のいない方は、何時でも入浴して頂けるようにし、介助が必要な方は、体調、タイミング、希望を聞き何時でも介助して入浴をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房の設備は各部屋にあり、好きな時に起き、天気の良い日は布団を干し、気持ちよく休眠してもらっています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの薬は、用法、用量等は薬袋に書いてある通りに服薬してもらい、どうしてもわからないときは、看護師等に聞くよう努めている、服薬して30分ぐらい体調に変化がないか様子を見る		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵・折り紙・編み物・カレンダー作り等、季節に合わせて、お花見や、紅葉を見に出かけ、気分転換をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は、近くの公園に出かけたり、地域のお祭り、催しなどに参加し、地域のコミュニケーションをとっている。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる人は、自分で管理し、できない人は、事務所で預かったり、権利擁護等で管理し、欲しいものがあるときは、希望を聞き、買い物の支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置し、何時でも使えるようにしてある。手紙も希望があれば代筆をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、四季折々の生け花をしたり、(ホームの花壇で花をつくり、それを生けたりしている)トイレ等の共用の空間は利用者が不快な思いをしない様整理整頓に心がけている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームにはテレビ等設置してあり、一人でお風呂に入れる人は、のんびりと入っていただき、あわてさせたりしない。入居者同士、ホームで話が弾んでいるときは、話の中に入っていないようきをつけている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた物を持ってきてもらい、使い慣れたものを使い、すこしでも自宅との距離感がないよう生活に工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の掃除、食事の手伝い、洗濯、花壇の手入れ等や趣味で自分で出来ることは自分でしていただいている。		